

**太宰府市障がい者プラン、
障がい福祉計画・障がい児福祉計画策定のための
関係事業所調査 結果報告書**

令和2年10月

福岡県 太宰府市

目次

I 調査の概要	1
(1) 調査の趣旨.....	1
(2) 調査方法及び調査期間	1
II 調査結果（団体・家族会調査）	2
(1) 障がい福祉に関する現状や課題、今後の方向性について	2
(2) 障がい福祉サービスの提供について.....	9
(3) その他	11
III 調査結果（事業所調査）	12
(1) 活動上の課題や今後について	12
(2) 太宰府市の障がい福祉について	17
(3) その他	22

I 調査の概要

(1) 調査の趣旨

障がいのある人の関係団体や支援機関に対して、太宰府市の現状や課題、今後の意向を把握し、太宰府市の障がい福祉のニーズや課題を整理することを目的として実施しました。

(2) 調査方法及び調査期間

障がいのある人の関係団体や支援機関、事業所に対し、記入式の調査票を配布して実施しました。

調査団体数：団体・家族会 11 団体へ送付し、うち 6 団体より回答

障がい福祉サービス事業所 34 事業所へ送付し 20 事業所より回答

調査期間：令和 2 年 7 月～8 月

Ⅱ 調査結果（団体・家族会調査）

（１）障がい福祉に関する現状や課題、今後の方向性について

1 理解の促進や地域交流

現状や問題点、課題	解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ●合理的配慮の促進…交通信号を音の出る方式に変える。 ●ボランティア活動の推進…なかなか手を挙げてくれる人が少ない。 ●地域社会への参加…当NPOとして市主催の環境祭り、人権祭り等に参加しており、受け入れてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●合理的配慮の促進のためには、個人だけでなく公的機関・企業・団体等にその必要性をPRしてほしい。まだ理解されていない面が多い。 ●ボランティアとして協力してくれる人を捜しているがなかなか見つからない。市報等で必要性を取り上げ啓蒙してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ●太宰府市全域。新しい会員さんが増えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉協議会さん等にも話、会員募集等しているが皆さん忙しいみたいで集まらない。
<ul style="list-style-type: none"> ●障害者間の交流は盛んに行われているが健全者間の交流が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者理解を深めていただくため、民生委員、福祉委員等とコミュニケーションが取れる場を作ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ●市内のお店やコンビニなど、今はマスクの着用で口話が見れない状況もあり、7月～ビニール袋が有料となり、何を聞かれているのか、状況がつかめない方も多いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●お店やコンビニといった、必要とするコミュニケーション内容をイラストや簡単な文字で、ゆび差しができるボードの設置があれば、コミュニケーションの障壁を緩和することができると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者は何もできないので、助けてやる存在だと誤解している人が多い。視覚障がい者は何も見えなくて、全員が点字を必要としている。聴覚障がい者は何も聞こえなくて、全員手話で話すなど。障がいは個々違うのに、ひとくくりで考えてしまいがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ●障がいの程度、あり方は個々で違うことの認識。このあたり前のことを社会全体で共有できるまで、啓発していく。障がい者自信も障がいの受容はなかなか難しいかもしれないが、誰も理解してくれないとあきらめないで、不便さを声に出してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ●「障がい」そのものにどこまで理解していたか、お聞きする機会がないが、「困りごと」に対して寄り添おうとさせていただいたり、手助けできるよと声をかけてくださる方は多くなったように感じる。 ●一般就労をしている人も増え、A・B型移行支援他、様々な場所において働くことで社会参加をしていると思うが地域行事への参加は、まだ少ないように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの立場から、違う立場の人に立ってみることで見えることがある様に思う。その上で、共通認識を深める為に顔が見える、知り合える機会を作る。一緒に楽しめるスポーツや勉強会、イベント等。

2 生活支援

現状や問題点、課題	解決のために取り組むこと
<p>●行政の福祉サービスはかなり整ってきているが、その実行については、まだ恩恵にあずかれそうな人にまだ支援の手が届いていない。</p>	<p>●市民に福祉サービスをさらに知ってもらう必要がある。そのためには市の広報に力を入れると共に、「福祉サービス相談会」みたいなことを実施したらどうか。</p>
<p>●よくわからない。</p>	
<p>●中途失明の方は仕事もできず、外出もできず、一日家に閉じこもり。全盲の方は（生まれつきの方）訓練がなされている。</p>	<p>●中途失明者の訓練事業（生活、就労）を考えてほしい。</p>
<p>●福祉用具について、今は、IT時代となっている。FAXの利用者も減っていると思う。FAXではなく、すぐ対応できるタブレットの助成があるといいのではと思う。</p>	<p>●聞こえる人は、電話で問い合わせがすぐできる。しかし、聞こえない人は窓口へ行くか、FAXまたはメールで問い合わせするも、待たなければならない。タブレットがあれば、問い合わせができ時間のロスを減らすことができると思う。災害時の活用にもつながる。</p>
<p>●地域移行支援を進めるときは、当事者が地域や家庭の中で孤立しない配慮が必要。当事者と地域（近所）とのコミュニケーションを構築していくためにも、行政や支援団体の初期からの関わりは必須。</p>	<p>●当事者は、環境になれたり、配慮してほしいことを伝えるのは大変かもしれないが、まず、自治会や関係団体に協力を求める。</p> <p>●自治体等はプライバシーに配慮しながら「近所見守りたいチーム」等を考え、実行していく。</p>
<p>●勉強不足でよく理解できていない。個人的には自立支援医療を利用させていただいているが、病院からすすめられるまで知らなかった。（20年程通っているが、昨年より利用させていただいている）</p>	

3 安全・安心、またユニバーサルデザインの推進

現状や問題点、課題	解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ●災害時の日頃の備えがまだできていない。周囲の人に助けてもらうためには周囲の人と日頃から言葉を交わし、知ってもらうことが必要。 ●避難行動要支援者の登録率が極めて低く、いざという時に助けてもらえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会主催の防災教室等に積極的に参加して周囲の人に知ってもらう。 ●要支援者登録制度を知らない人が多いので市の広報を積極的に行う。民生委員経由で登録用紙を配り集めてもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ●各駅に配置されているエレベーター、視覚障害者にとって、ありがたいものですが、一人でエレベーターに乗ったのはいいが、暗くてどのボタンを押せばよいのかわからず、次の人が来るまで5～6分出ることもできず、中で閉じこもっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●誰のためのユニバーサルなのか？みんなの？上辺だけの見た目だけではなく、作る前に障害者を取り込んで作ってほしい。そして、検証してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ●視覚障害者の方は、見た目ではわからない障害となる。災害時、気付いてあげられるのが遅れてしまう可能性が大きい。また、当事者もどのように行動したらよいかわからない人もいるはず。避難所での放送だけでは情報が伝わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所に、目で見えてわかるボードを準備しておく。（食事の配布など） ●手話を言語とする人がいた場合は、手話通訳者をつなぐ。（市の設置通訳者へ）困った時にすぐ連絡が取れるようにタブレットの設置があれば、遠隔でのコミュニケーション支援ができる。 ●難聴者用の筆談ボードの設置。 ●聞こえない、聞こえにくい体験をすることもいいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ●災害時避難所では、情報共有が原則。音声だけの情報伝達でなく、手話通訳や要約筆記の手配も整えていく。視覚障がい者は、外見から判断できるが、聴覚障がい者は、申し出がないと気づかないことも多い。特に被災者への連絡や配付物などの行動を伴う場合は、障がい者が情報不足で置いていかれないような配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日常からコミュニケーション方法は、音声だけでなくことを意識して、住民にも啓発していく。特に情報を視覚で伝えることは有効なので、スマホのアプリ利用や文字での伝え方の技術（文字力）を、災害時に主体となる人は学んでおく。災害対策会議などにもコミュニケーション支援を行う団体は加盟し、情報を共有していくことを求めたい。
<ul style="list-style-type: none"> ●避難行動要支援者避難支援制度がどれくらい活用されているのか。実際に動けるものになっているのか。現状が把握できているとは思えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●隣組単位での自主防災グループをつくる。日頃の見守りも兼ね、顔が見える関係で個別の対応を考えておくことができる。

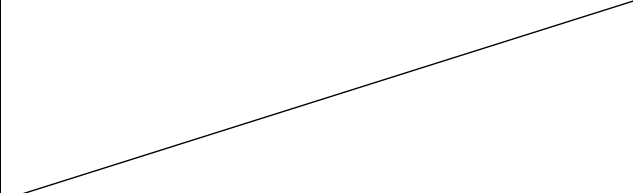
4 雇用・就労、経済的自立への支援

現状や問題点、課題	解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ●働きたいとの意欲はあっても働く実力が備わっていない。 ●企業側に障がい者等を雇用する意欲がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●まず障がい者はA・B型施設等で働く力（意欲と実施の力）をつける。 ●施設等は障がい者にある程度の力がついたら試行的に就業させる。 ●受け入れ側の理解を得るよう施設と企業の話し合いの場を市の音頭で開催する。
	<ul style="list-style-type: none"> ●健全者が仕事を奪わないでほしい。（例、灸、はり、あんま）
<ul style="list-style-type: none"> ●市内で、働いている聞けない方がいる。「うまくコミュニケーションが取れなく、我慢していると…」また、雇用者に対して合理的配慮として何をしたらいいかわからない方もいると思うので対応が必要だと思う。 ●研修や大切なことを伝える時、面接等、手話通訳・要約筆記を依頼することを知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●企業に対して、障害者種別の合理的配慮がわかるパンフレットを作成し、配布する。（手話通訳と要約筆記の希望を確認すべき） ●障がい者の体験を実際にやっていただく。そこで気づきや改善になればと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ●微妙で、難しい課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ●どれも一人で抱えこまず、それぞれの機関へつないでいく。信頼関係を築くには、守秘義務は欠かせない。
<ul style="list-style-type: none"> ●当団体の家族は特例子会社や一般企業で就労しているが、職場の理解もありありがたい。障害者総合支援法に則った就労の場は格段に増えたと思うが、そこに行けない人たちのことが気掛かり。 	<ul style="list-style-type: none"> ●単独市での取組は難しいと思いますが、筑紫地区としてセンター的な支援ができると思う。 ●行政と民間がつながること。（事業所を行政が応援する）

5 障がい児への支援

現状や課題	今後必要な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ●家庭にひきこもり、外との交流がない。 ●支援学校等への相談ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭だけにまかせないで自治会、行政が積極的に声をかけ外の集まりに誘う。 ●本人と家族のみで悩まないで行政、社協、支援学校で手を差し伸べる。（定期的相談会を開催する）
<ul style="list-style-type: none"> ●寝たきりの障がい児がおられるが、現状がまったくわからない。お困りごとが色々おありだと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉課、民生委員等からの情報がほしい。会より手助けができる事は何か。まず、情報の開示をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ●情報共有できる場が少ないと思う。市内において、同じ境遇の方々をつなげていくことが必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●当会にも、聞こえないお子さんを育てられた方や、聞こえない両親で育った方といらっしゃる。何かネットワークができたらいいいのでは？ ●手話奉仕員講座ではなく、子育て中のお母さんたちも参加できる手話サロンがあるといいのではとも思う。
<ul style="list-style-type: none"> ●総合学習などを通して、障がい教育を進めていると思うが、“仲良く”や“お手伝い”部分で、クラスメイトや親の本音は聞ける環境にあるのか？太宰府の話ではないが、妹に障がいがある児童がいる。家庭では妹の世話、手伝いをよくしている。クラスメイトにも障がいを持つ児童がいた。先生から「あなたは慣れているから」と障がい児と同じグループに入れられ、障がい児と離れられない学校生活になった。親としては、家庭でよく手伝って妹を見ているので、せめて学校ではのびのびと過ごさせたいと。母親は、先生に伝えるべきかどうか悩んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校側は、クラス全体で支えていたと思うが、親にはきちんと伝わっていない部分があったのでは。学校に言えば冷たいと非難されるかもと、恐れの部分もあるだろうが、勇気を出して学校に相談することを進めたい。意外と子どもは負担と思わず、友だちと楽しんでいるかもしれない。
<ul style="list-style-type: none"> ●家族が成人して教育現場のことがわかりません。 	

6 保健・医療

現状や課題	今後必要な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリに行きたいが金がかかるのではないかと、悩む人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医者に行く場合の費用等を説明する資料の作成。（市で） ●市主催の定期的な保健・医療相談会を開催。
<ul style="list-style-type: none"> ●障害者のための機能回復施設がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校区内に誰にでも利用できるトレーニングセンターがほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ●健康診断時の情報保障について。医師からの説明は、聞こえる立場でもわかりづらいこともある。難しい病名や医療用語など。 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康診断時に本人が通訳者を手配しないとイケないが、実施する所が準備するべきだと思う。事前に申込書の欄に配慮する項目をつけるべきだと思う。（手話通訳・要約筆記） ●視覚障がい者に対して説明の際にわかりやすく噛み砕いて説明し、見てわかるように写真や映像、イラスト等を使用していただけるような啓発を行っていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者に付き添っての介護通訳を行うことがある。今回のような新型コロナだけでなく、風邪などの流行時の同行について、不安を覚えながらも介助者がいないと困るだろうと、受諾してしまうことも多い。どこまでが支援なのか、悩ましく思うことも出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●しっかりと防護策をとっていくことが一番。不安なら断る勇気も。自分でもよくわかっているのですが。
<ul style="list-style-type: none"> ●身体的には健康体で利用する機会がほとんどない。一般の病院に通院する際は、よく説明してくださったり、昔に比べると対応が親切になった。 	

7 文化芸術・スポーツ、地域活動

現状や課題	今後必要な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ●意欲を持つ人が少ない。 ●意欲はあるが参加の仕方がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●参加のためのパンフレットを作成。 ●ヨガや水泳など障がい者向けの教室を開発する。
<ul style="list-style-type: none"> ●展示館では、ほとんどが音声文字による解説だったりする。聞こえない人は音声はもちろん、文字の読み書きが苦手な方もいる。どんな方でも対応できる工夫を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットによる解説の場合、手話付きがあればいいと思う。字幕か手話と選べたりできると。 ●私たち手話の会でも太宰府天満宮での手話での観光案内に取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーション不足から、何もしないで引きこもり生活をしている人も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動の一步は「声かけ」と「みまもり」。 ●押しつけの行動は逆効果になるので注意すること。
<ul style="list-style-type: none"> ●「障がいのある人の…」ではなく、誰でも参加できるものがたくさんあればいいと思う。 	

(2) 障がい福祉サービスの提供について

問1 障がい福祉サービスについて、現在太宰府市において不足していると思うサービスに○をつけてください。(○はいくつでも)

現在不足していると思うサービスについてみると、「共同生活援助（グループホーム）」が3件（50.0%）で最も多く、次いで「同行援護」「自立訓練（機能訓練、生活訓練）」「手話通訳・要約筆記者派遣」が2件（33.3%）となっています。

【不足していると思うサービス（N=6）】

単位：件（%）

サービス名	回答
居宅介護（ホームヘルプ）	-
重度訪問介護	-
同行援護	2(33.3)
行動援護	-
重度障害者等包括支援	1(16.7)
生活介護	1(16.7)
自立訓練（機能訓練、生活訓練）	2(33.3)
就労移行支援	-
就労継続支援（A型・B型）	-
就労定着支援	-
療養介護	-
短気入所（ショートステイ）	1(16.7)
自立生活援助	1(16.7)
共同生活援助（グループホーム）	3(50.0)
施設入所支援	1(16.7)
計画相談支援・障がい児相談支援	-

サービス名	回答
地域移行支援	-
地域定着支援	-
児童発達支援（医療型児童発達支援）	1(16.7)
放課後等デイサービス	-
保育所等訪問支援	-
居宅訪問型児童発達支援	1(16.7)
成年後見制度利用支援	-
相談支援	-
手話通訳・要約筆記者派遣	2(33.3)
入院時コミュニケーション支援	-
日常生活用具等給付	1(16.7)
移動支援	1(16.7)
地域活動支援センター	-
日中一時支援	-
訪問入浴	-
重度障がい者等入院時コミュニケーション支援	-

問2 特に（早急に）確保すべきサービスを4つまで選んで、不足していると感じる理由や確保に向けたアイデア等がありましたらご記入ください。

特に確保を進めてほしいサービス（名称）	不足していると感じる理由、確保に向けたアイデアなど
交通信号の音声化	計画的に実施してほしい。
相談会	医療、保健、リハビリ、福祉サービス全般に関する相談会を年2回程度開催したい。
障害者、障害者施設向け防災学習会	福祉ネットワーク会議で学習の機会を。（協議会で行った調査結果を皆さんに報告することはできる）
同行援護	いつでも、どこへでも利用できるサービス。
グループホーム	障害を共に乗り越え、共に生活できる場が不足している。
遠隔手話（要約）通訳事業	タブレットの準備、ネット環境の整備。
ショートステイ	わからないことだらけ。ショートステイは利用したいと思い調べたが受けてくださる所がありませんでしたので…。

(3) その他

問1 新型コロナウイルスの感染拡大のなか、困難を感じたこと、また、行政の支援として必要だと感じたことなどあれば、ご記入ください。

- | |
|---|
| ●障がい者の中にはコロナ問題を理解できない人、防災意識の低い人がおり、何度も指導するが徹底できない。利用者間でコロナが感染することを心配している。→対策として、このような人を一時的に出席させないことも考えなくてはいけない状況で苦慮している。 |
| ●新型コロナウイルス感染の影響でイベントのほとんどが中止になっているが、今後、8月以降の予定を決めかねている。行政からの指導をお願いしたい。 |
| ●コロナ疑いでも、手話（要約）通訳者の派遣ができないので、対処するために遠隔通訳が必要となる。 |
| ●遠隔に伴い、保健所と病院の連携体制づくり。 |
| ●通訳時のフェイスシールドの確保。マスクでは口元が見えないので情報がとれないと言われた。 |
| ●家族と暮らしていますので、今はありません。グループホームでの暮らしに向けて、ショートステイを利用しつつ力をつけていこうとしていた矢先のこの事態で、実際にグループホームといっても、こういうことも考えておかなければいけないのかと実感した。もし、親が罹患した場合、入院とかになれば身内でどうにかせねばと思っているが、支援が受けられるのかと逆に思った。 |

問2 その他（その他、太宰府市における障がい福祉について、ご意見等ありましたらご記入ください。）

- | |
|--|
| ●日頃からよくやっていただいていると思うが、時には横並び（5市の比較）で足りない分を知り、対策をうつことも大切ではないか。 |
| ●障がい者と支援者が一堂に会して語り合える場所（機会）を作してほしい。コロナ収束後に。 |
| ●知らないことが多くて、勉強不足だなとアンケートを書きながら思った。それでも団体活動を行っている分、多少知り得ていることもあり、世の中にあるサービスや支援を知らない人は多いのだろうと思われる。「とりあえず困ったら市役所へ」と知らない人には言ってあげたい。頼りにしている。どうぞよろしく願います。基幹相談支援センターよろしく願います。 |

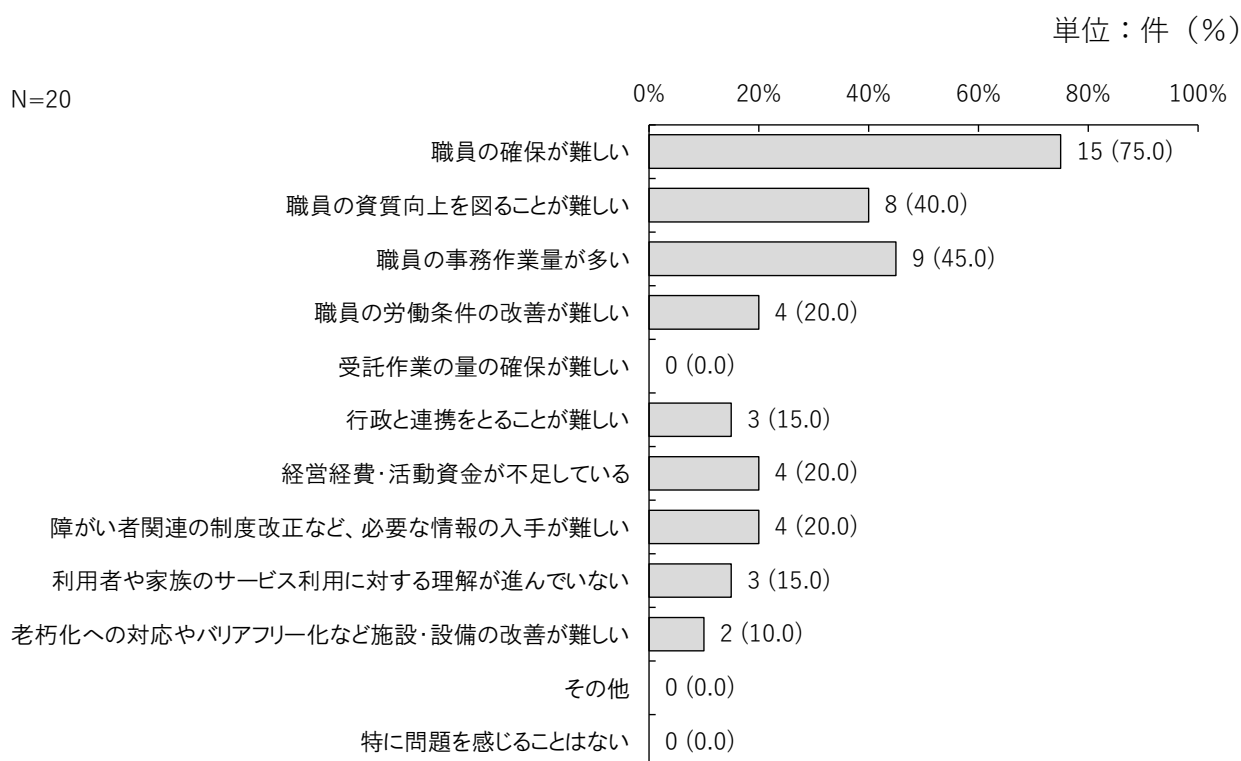
Ⅲ 調査結果（事業所調査）

（1）活動上の課題や今後について

問1 事業の運営を進めていく上で、課題や問題を感じることはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

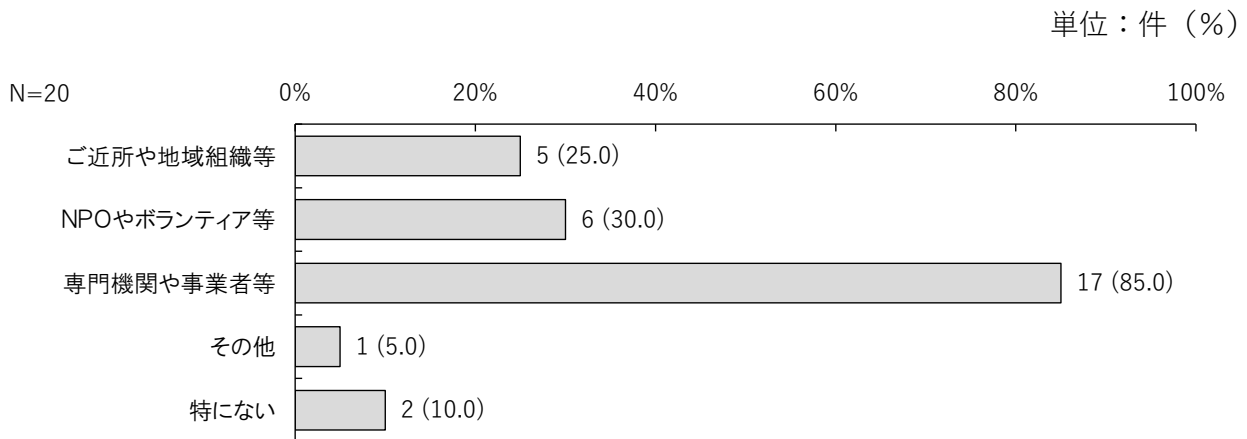
事業の運営を進めていく上での課題や問題についてみると、「職員の確保が難しい」が15件（75.0%）と最も高く、次いで「職員の事務作業量が多い」が9件（45.0%）、「職員の資質向上を図ることが難しい」が8件（40.0%）となっています。



問2 事業を運営する中で、連携・協力している機関や団体などはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

事業を運営する中で、連携・協力している機関や団体についてみると、「専門機関や事業者等」が17件(85.0%)と最も高く、次いで「NPOやボランティア等」が6件(30.0%)、「ご近所や地域組織等」が5件(25.0%)となっています。



[その他回答]

- 医療

問3 問2でお答えいただいた機関や団体などと、連携・協力している内容について、具体的にご記入ください。

●医療機関：利用者に風邪の症状や体調不良がみえたときの一次診断。
●利用者及びその家族の状況の連絡、連携。(福祉事業所が主)
●各機関の専門的見地による適切な助言や導き。(行政を含む)
●将来の自立した日常生活や、それにつながる支援としての連絡連携を実施。(地域NPOによるものが多い)
●医療機関と治療的な情報共有、危機介入。
●相談支援事業所、就労支援事業所等と社会復帰に向けた情報共有・共同での支援。
●相談事務所とは、利用者の様子を報告し合い、現状も踏まえ今後のことについて話し合っている。また、利用者さんの紹介もしてもらっている。
●医師会が委託されている医・介連携での意見交換など。
●他事業所との情報交換、情報共有など。
●専門職団体との情報交換(研修会や会議への参加)や他事業所との連携。(経営や人事交流など)
●相談員。

●地域ボランティア、不登校児支援団体、近隣（筑紫野市）障がい児支援団体、介護施設事業者、同業事業所等。
●職業就労支援センターとは、就職する利用者を引き継ぎ、就職後の様子を時々知らせてもらっている。
●人員の問題で、調整が難しい時、調整可能な事業所に代わりに入ってもらう等
●触法関連（刑務所視察 etc）で NPO 法人抱樸さん協賛、研修 etc。
●基幹病院。同業法人の NPO。同業種。
●自治会とは機関誌の配布、まつりの共同参加等で連携している。
●事業者は整備関連（利用者の）補装具等連携している。
●専門機関としては、重度高齢化の中、医療との連携が不可欠。
●ボランティアさんは年に 1～2 回定期的に来園して下さる団体があり、不定期ではマッサージをして下さる方たちも来てくださる。
●利用者様の体調や管理→病院、看護師、ソーシャルワーカー。
●地域の方々との交流、夏まつりの参加、避難訓練の参加など。
●ボランティアの青年たちの居場所。（清掃などのお手伝いをしてもらっている）
●支援が難しい時に専門の従事者、機関に相談している。
●精神障がいの方や発達障がいの方など医療受診に同行、医師等のアドバイスをいただいている。
●ボランティアで専門の方が相談を受けてくれる所に法的なこと、薬のこと、見立てや見通しなど、本人と一緒に相談に行き、アドバイスをもらっている。
●同業種の会社、医療機関、医療、福祉、教育をつなぐ団体。
●他の事業所または相談支援事業所。
●自治会との連携、地域行事への参加。

問4 今後、「行政」「関係機関」「団体」「市民」などが連携を深めていくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。ご提案やご要望などがあれば、ご記入ください。

●特にありません。
●利用者及びその家族が身近な計画相談支援員へ連絡をされることにより、情報を十分にご家族の了承を得た上で専門機関や行政に伝えて行くことで、ご利用者を取り巻く支援者を増やし、円滑な実施へと取り組むことが大切と捉えている。(重要な課題を見出し、広げて行くことが重要と思う)
●各機関、地域でどのような役割を担うか理解した上での会議等の集まりが必要だと感じている。
●「連携」のはじまりは、「関わること」「知ること」からだと思うので交流の機会をつくっていったらと思う。
●地域連携のためには自立支援協議会等に参加し、課題を知ること、解決に向けて動くこと、当事者(施設)として地域の中でできることを見つけることなど「つながり」を作っていく取組が必要と感じる。
●療育相談、発達相談が積極的に事業所と連携をとったり、情報共有をとってほしい。
●同業種間の勉強会、情報交換会などあればいいと思う。
●異業種交流などによる地域活性や情報交換によって、障がい者の就労の場所や活動の場の広がりを図れる場が望まれる。
●担当者の方との交流、情報交換など、どの様な業種なのかを詳しく知ってもらうことが大事だと考える。顔が見える連携を希望する。
●関係機関(NPO、ボランティア等)との連携。
●支援機関(研修、勉強会、交流会等)の設立。
●行政は、障がい者が自立できるよう、当事業所のような事業所任せにするのではなく、訓練的な事業所を増やして(時給でお金を払う)ほしい。グループホーム(入所施設)も不足している。親亡き後、1人で生活できない人が多い。利用者が困った時に、誰に相談したらいいのかわからない人が多い。
●制度上難しい内容時に相談できる機関があればと思う。
●相談支援事業所の方の関わり方が事業所によって違いが大きい。
●困りごとに対してのサービス情報を広く伝えることが大切と考える。8050問題など、太宰府市の回覧板に入っていた就労支援の情報から相談できた方がいた。
●居宅介護等は時間も不規則(入所等も同じと思いますが)なので、集まって何かをするということ自体は無理を感じる。興味、関心を持っていただくことが、まずは必要に思う。
●制度の簡素化。情報共有(正確性、最新性)の仕組み。→ネット等によるデータベース統一とリアルタイム更新。

例えば、防災について

●行政の地域の特徴のお話。

●消防との連携。

●団体、市民と地域の方々との避難訓練などを大きく、そして部分をしっかり道筋立ててみるなど。

●サービスと利用者様の求めることのギャップを解消していく必要がある。

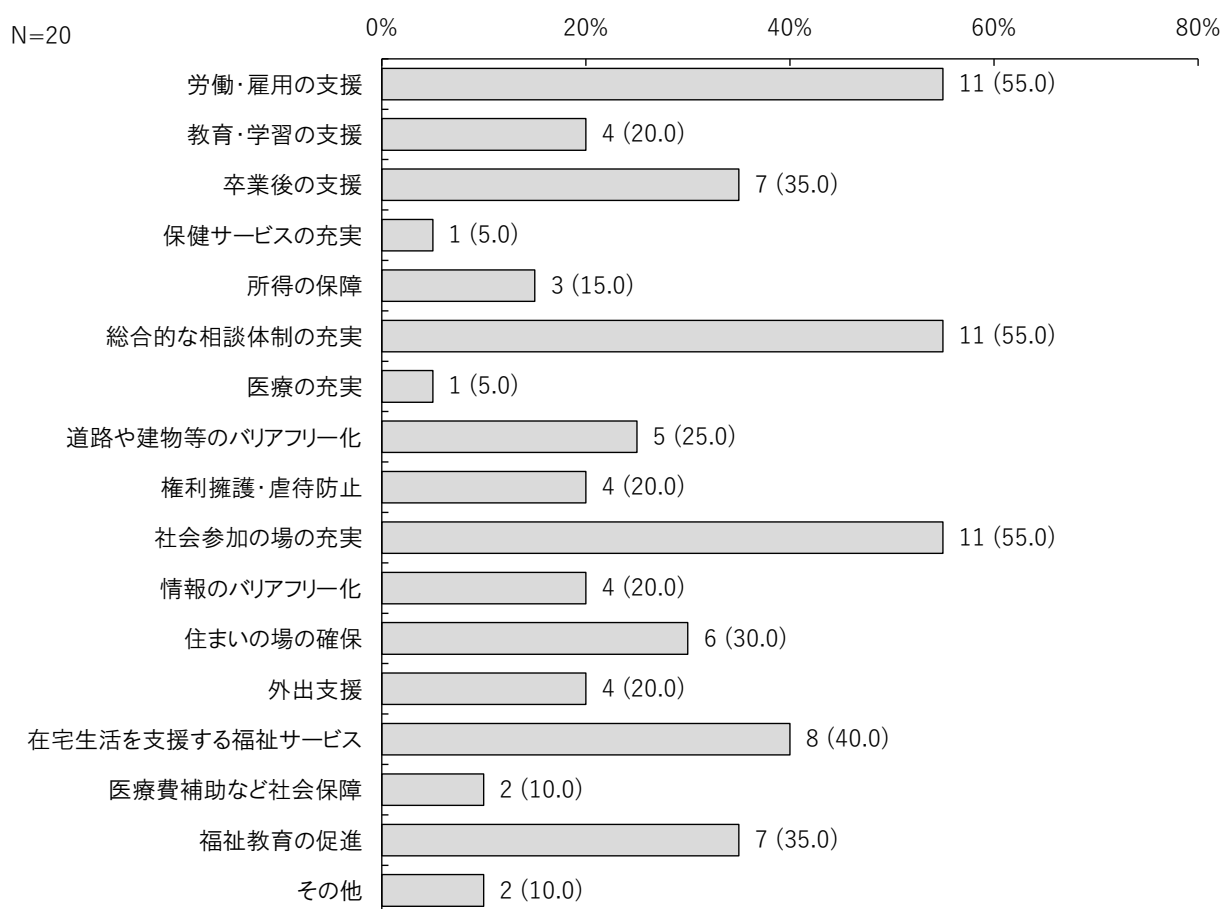
●行政と現場の認識のズレと行政と利用者様のズレ、現場と利用者のズレを解消していけたらと思う。

(2) 太宰府市の障がい福祉について

問1 太宰府市が障がいがあっても暮らしやすいまちになるには、次のうちどの分野に重点的に取り組むことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

太宰府市が障がいがあっても暮らしやすいまちになるために、重点的に取り組むことが必要な分野についてみると、「労働・雇用の支援」「総合的な相談体制の充実」「社会参加の場の充実」が11件(55.0%)と最も高く、次いで「在宅生活を支援する福祉サービス」が8件(40.0%)、「卒業後の支援」「福祉教育の促進」が7件(35.0%)となっています。

単位：件(%)



[その他回答]

- 居宅の利用に関しても制限が厳しいと思う。特に障がい児に対して。
- 福祉事業所の整備。

問2 問1でお答えいただいた分野の取り組みを進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。具体的なお意見やご提案があれば、ご記入ください。(最大5項目まで)

労働・雇用の支援

- 一般就労したい人がたくさんいるが、受け入れる会社が少ない。難しい作業でなく、短時間でも…と会社の求人をもっと増やしてほしい。
- 卒業後の支援がまだまだ充実しておらず、情報も少ないため、市、学校、事業所間の関係の拡大。
- 安心して自分に合った環境での就労について、年齢問わず総合的な支援窓口があればよいと考える。就労は生活安定、社会参加、生活の張りなど大切。児童の健全育成にも関係する。
- 卒業後の進路の選択肢が非常に少ないので情報共有できる場を（学校も含め）作ってほしい。
- 切れ目のない支援ができるよう18歳までの児童福祉法によるサービスと就労支援関連の事業所がつながりやすくなる工夫が必要。
- 障がい者を雇用したいと思う雇用者側にも不安があり、また相談できる場所もなければ継続が難しい。まずは企業を含めた異業種交流を。

教育・学習の支援

- 教育機関と福祉の連携。学校とデイサービス、幼稚園、保育園と児童発達支援。
- 学習、特に社会生活技能訓練を充実させるため、そのサービスに対する給付があるとよい。

卒業後の支援

- 卒業後の情報がいただけるよう法の枠を超えたシステムがあるとよい。
- 生活介護、就労B、A等の帰宅時間が早いので、その後の支援をどうにかしてほしいという声をよく聞く。

所得の保障

- 財政状況によりますが、市単独の財政支援。(ベーシックインカム的な方法)

総合的な相談体制の充実

- 重要な課題、問題を多く抱えており、相談体制の広がりや専門性の高い多視点からのサポートの充実が求められる。
- 公共の相談機関と別に民間団体の相談機関への支援。
- 同じ障がいを持つ人たちとコミュニケーションの場がない。また、性的悩みを持つ人の相談場所がない。
- 相談員がいない利用者さんが、太宰府では多い。問題等があった時、介入できる人がいないので、困っている利用者の方は多くいると思う。
- 困りごとや課題、問題を1事業者や個人だけで解決することは難しい。必要なサービスや機関につなげるために相談体制の充実が望まれる。
- 相談支援事業所の関わりが介護保険のケアマネと同様の関わりが持てる様になれば、細かい困りごとにも対応できる。
- 相談支援をしていて、ご本人だけでなく父・母・家族に支援が必要なことがある。そういう時に必要な関係機関が協力して、チーム支援ができる体制が必要。
- 相談ができない埋もれた方々への支援の働きかけが必要。アウトリーチなどの動きある相談と、それを受ける相談機関の窓口の設置。

医療の充実

- 正意ある在宅医の増加。

道路や建物等のバリアフリー化

- 行政単独でなく、国全体でも言えるが、バリアフリーが遅れているような感じ。
- 観光客が多く、車イスの人は外出するのでさえ大変な気がする。今は減少していると思うが、車イスの人でも通りやすいように工夫すべきだと思う。

権利擁護・虐待防止

- “心のバリアフリー”とよく言われるが、人権意識の全体的な向上と虐待防止のための啓発をすすめなければ、暮らしやすいまちとは言いがたいと思う。
- 発見、気付いた場合、相談、通報。市役所など。
- 色々な場面を見るが、定義が定まっていない感じがするので、自分に都合のいい解釈をしているように感じる。

社会参加の場の充実

- 卒業後のみならず、障がいを持つ人々が社会の協力のもと、自信を持って活躍できる場がほしい。学生時代からの取り組みとしても求められている。
- 障がいがあっても社会で暮らす一員ですから、社会参加の場は必要です。気軽に参加できる場が望ましい。
- 障がい者、精神、知的障がい者などが個々の性格や性質にあった作業所の数が少ない気がする。
- 障がいがある方とない方が参加できるイベントの開催など、多くの方が交流できる機会。
- 児童とともに公園に出かけることが多い中、児童にとって魅力的な公園が少ない。(梅林スポーツ公園は坂がきびしい。車イスでは行けない)
- 大人の利用者さんとともにちょっとしたイベントにも参加したいが曜日、種類も少ない。
- 「困った時に相談できるところがあるよ。」という、行政取り組み等の教育があれば、適切な相談をしてくる住民意識が育つのではと考える。

情報のバリアフリー化

- 事業者、利用者、地域関係団体間の情報共有整備をお願いしたい。
- 制度の簡素化。情報共有（正確性、最新性）の仕組み。→ネット等によるデータベース統一とリアルタイム更新。

住まいの場の確保

- 親亡き後、1人で生活できない人を受け入れる所。グループホームや入所施設が少ない。
- 安全、安心な生活環境の整備。重度障がい者支援、バリアフリー。

外出支援

- 移動支援の対象者の見直し、施設利用者に対する取組。

在宅生活を支援する福祉サービス

- 聴覚、視覚障がいの方々が安心して生活できる環境が少ないと感じている。グループホームもないのが現状。
- 家族がいるから、家族で介護できるというのは、現状の共働き家庭や兄弟児がいる家庭では厳しいと思う。入浴だけでも毎日入れるよう支援（支給時間）をしてほしい。
- 慣れたまちで生活したい気持ちは誰にもある。在宅で充実した暮らしができるよう支援の強化を望む。
- 行政の支援があれば、より多くの福祉サービスが提供できる。（場所、人員、資金など）
- 家族負担による支援の軽減のためにも、在宅支援は必要であり、個々の生活状況やこれから先の生活不安と一緒に考えるホーム相談が継続的に行われる体制。

医療費補助など社会保障

- 中学生までの医療費免除。

福祉教育の促進

- 福祉教育促進において、障がい者の持つ個性に伴う知識やスキル向上などもっと必要と感じている。手話、点字も含む。
- 小中学生の体験学習など最近は積極的ですが、「ユニバーサル」の考えをもとに誰もが暮らしやすいまちづくりをするには、教育は不可欠なものと思う。
- 学童期から障がいの事を理解できる教育や、障がい者と触れ合う機会が増えることが望ましい。

その他

- （その他回答：福祉事業所の整備）事業の種類別に過多、不足等の整備。民間事業者との連携強化により、障がいサービスの向上をする。

(3) その他

問1 新型コロナウイルスの感染拡大のなか、業務を行うにあたって困難に感じたこと、また、行政の支援として必要だと感じたこと、今後の課題だと感じたことなどあれば、ご記入ください。

●緊急事態時のマスクの支援をしてほしい。
●災害時のことを思うと不安になりました。
●新型コロナウイルス感染拡大の中、業務を行うにあたり、会議の招集に困ります。リモート（LINE、Zoom、Skype）等の現代の新しいアプリを使用した安全かつ、効率的な会議開催を希望する。行政の支援としても、各ブースにリモートできるデバイスを設置し、各機関との連携が円滑に図れる体制を求める。
●マスクや手指消毒液を調整いただき大変助かった。
●放課後等デイサービス運営において、学校との連携が重要かと思う。今回の臨時休校時の対応等、苦慮した。（太宰府市隣接地区等、学校単位により休校等の対応の違い等）
●今回のコロナに対する給付金が設けられているが、すべての給付金対象条件が「前年度の同月より減収した…」とある。A型は「売り上げを上げるように」と言われ、当事業所も努力している。コロナの影響を受けて「仕事もかなり減り、収入も上がっておりませんが、昨年度と比較すると減収はしていません。また、ほとんどの仕事の売り上げは2ヶ月後に入ってきている。仕事が減り減収となった月は、4月5月で、その売り上げの少なさが現在にひびいている。行政の（国の）支援と現場の現状とが食い違うことが多く、何の対象にも当てはまらずに困っている。
●ひとり暮らしの利用者の方もいるので、感染してもわからない、もしくは言わない（介助者が必要なため）ケースもあると思う。また、職員一人でも感染者が出てしまうと、今度は逆にサービスに行くことができない。ひとり暮らしの利用者さんだと、介助者が入れないのは命にも関わってくるので、そのような場合どこに相談すべきかも、どのように対応すべきか教えていただきたい。
●障がいをお持ちの方は介護と比べ若い方が多く、身寄りのない方も多い。訪問サービスに関しては、コロナだけでなく、盆・正月連休などパート（主婦メイン）が勤務しにくい日は常勤の負担が大きい。
●休業補償。
●障害者支援施設としては、入所の方と通所の方のハード上の完全分離からすすめ、活動や作業の大幅な見直し変更を行い、それに伴い職員配置も変更するなど、先の見えない状況の中で利用者さんの安全を確保することに必死でした。十分な理解を得られないまま感染防止をすすめたように反省している。
●活動や作業の変更とともに、QOL向上も考えてきたが、コロナ感染防止との両立を図っていく難しさを今も感じている。

<p>●行政支援としては、通所において在宅支援を実施し、大変ではありましたが緊急事態を越えられたと思っている。</p>
<p>●現場では不安を訴える職員がいる。障がいの方は生活リズムを変えることが苦手な方が多い。感染リスクが高いと感じる利用者に関する職員の不安も理解できる。サージカルマスクやアルコールの給付はとても助かった。</p>
<p>●事業者で感染は今のところありませんが、引き続き新しい生活様式を行っていく。</p>
<p>●学校が休校になる中、保護者が支援にあたることのできない子も多く、事業所は休まず運営を行った。その際、3密を避ける工夫に大変苦労しました。マスクの着用が難しい子、十分な手洗いができない子、外出をしないと落ち着かない子など様々でした。今後、とびうめアリーナ等の広いスペースを他事業所と重ならない様に1時間ずつでも貸し出ししていただき、ストレス発散の場となる様、利用したい。</p>
<p>●困難：備品（マスク、消毒液）等の確保。支援学級がコロナ禍の休みの時の福祉サービス事業所の中の“密”。</p>
<p>●行政支援：見える形で自ら動いてくださること。（商業のみではなく、医療、介護の現場へ）</p>
<p>●今後の課題：直ちに今してほしい希望、要望の吸い上げ。事業所ごとにPCR検査が無料、もしくは低価格で受けられるシステム。それも2週間ごと、3週間ごとに受けられれば、なおよいと思う。</p>
<p>●自分が感染源になってはいけないと思いました。感染しているか簡単に検査できる方法があればよいと思いました。現在もそうですが。</p>
<p>●必要な場面では会議、訪問もしました。止めることと適切に対応していくことが難しかった。行政からのメールで予防に努めた。</p>
<p>●児童・生徒たちの発達に滞りがないよう在宅支援を充実させたが、国や県・市の在宅支援に対する指針が明確でなく、事業所ごとに考え方、捉え方が異なっていた。子どもたちのために今後、感染拡大や非常事態宣言下での支援の在り方、パターン、ひな型を示していただきたい。</p>
<p>●利用者の方々の不安軽減のために緊急事態宣言時のB型の在宅支援は大変有益性であったと感じた。しかし、グループホームなど集団生活での発症を想定するとどの様な対策、対応が必要かが見えない。自立支援協議会などで、保健所を交えた、発症時の対策、対応のマニュアルなどを考案していただきたい。</p>
<p>●外出自粛を求められる状況の中で、支援に行かないと事業所は存続ができなくなるが、移動支援で外出に行くことも厳しいので非常に悩ましく思う。</p>

問2 太宰府市の障がい福祉に関して、ご意見やご提案があれば、ご記入ください。

●特にありません。
●いつも、連絡、相談、実施へと協力していただき大変感謝している。今後も新しい現代のあり方を見出し、充実した、安心した生活へとともに寄り添っていきたい意向。今後もよろしくお願ひする。
●いつも迅速に対応いただきありがとうございます。
●精神障がい者（アスペルガーや適応障がい）が相談したくても病院では聞いてもらえず、「どこに相談へ行けばいいのかわからない」と言っておられる方がいる。相談窓口の書かれたパンフレットのようなものがあればわかりやすいと思う。
●自治体の財政規模にもよるのかもしれませんが、障がい者だけでなく、それに携わる職員にも手厚くしてください。
●正直、制限が厳しいと感じている。家族が高齢で、逆に介護しないといけないような状況でも、人手にカウントされて支給量を増やしてもらえなかったり、ひとり暮らしの障がい者でも支給時間が少なく、厳しいと聞いている。また、近年水害等による自然災害も多く、ひとり暮らしの障がい者（24時間ヘルパーはいない）が不安になって避難所に行くことを相談した時も、来るのはいいけど介護者はいないと言われ、どうしたらいいのかと言っていた。介助者は後の話で、まずは避難できるように手配します。が普通だと思う。そんな風に言われたら障がい者は避難できません。もう少し配慮のある言動をお願いする。
●触法や精神・知的に関しては、ヘルパーさんが怖がって敬遠する傾向が強い。他ジャンルでは触法に関しては加算があるとも聞く。この点に関して提案する場もなく、書かせていただいた。
●太宰府市に関しては、障がい福祉課担当の方にいつもスムーズに対応していただいている。ありがとうございます。
●医療的ケア児、医療連携児への理解と重心児同等の位置づけ。（受給区分等）
●太宰府市に本部があり、当施設も児童の事業所もサービスを提供している。「地域」の施設として地域の中に当たり前にある施設を目指している。高齢者に限定しない包括的サービスの提供を図っていけるよう施設としても努力していくが、行政施策として“包括サポート”を強化していただけたらと思う。
●いつもお世話になり、ありがとうございます。これからもご支援、ご協力のほどよろしくお願ひする。
●お世話になっています。大きな要望はありませんが、あえて書くと新型コロナウイルスへの対応の様なことと思った。
●総合的な相談窓口から、それぞれの担当につながるワンストップの障がい福祉に限らず相談窓口があればよいなと考える。どこに行ったらよいかわからなかったという意見を聞く。
●ネットワーク会議の存在はたいへんありがたく、心強く感じている。形骸化しないように内容を充実し、現実に則したものであり続けてほしい。
●緊急時な場合において、臨機応変に対応してもらえたら助かる。
●相談支援の充実を。官民の共同のもと体制づくりについて、思案していただきたい。

太宰府市障がい者プラン、
障がい福祉計画・障がい児福祉計画策定のための
関係事業所調査 結果報告書

発行年月／令和2年10月
発行／福岡県 太宰府市 福祉課